岩倉市タウンミーティング（空の下いわくら）会議録

日時　令和６年２月９日（金）
19 時 30 分～21 時 00 分
場所　コミュニティかふぇ かがよひ

出席者　空の下いわくら　12 名
市長、副市長、総務部長、協働安全課長、市民協働グループ長、秘書企画課長、広報広聴ｸﾞﾙｰﾌﾟ長、同担当

１　あいさつ
・空の下いわくら　代表　水野孝司氏
・久保田市長

２　懇談
テーマ　市民参加

（１）市民参加の状況について
・協働安全課長、市民協働グループ長から資料に基づいて説明

（２）参加者自己紹介（12 名）

（３）意見交換
【参加者】私は耳が聞こえないので参加するにあたり障害があり、こういう場での参加でもハードルがある。自分で用意すればいいが、文字起こし機器などを市で用意することを検討してほしい。

【市長】手話通訳、要約筆記は導入していますが、それでは十分ではない人もいるということで理解した。外国籍の人もコミュニケーションにアプリを利用していて有用なツールだと思う。すぐ結論は出せないが、もう一度勉強させて頂きたい。

【参加者】それまでも市民参加があったと思うが、条例ができたのが平成２８年。約８年経過した今、何か変わった点、市民の感覚が変わってきた、認知度が出てきた等あれば聞きたい。

【協働安全課長】２年間やってきた未来寄合の実施状況を見ると、街づくりに興味をもっ

た市民は増えたのではないかと思う。各行政区でも地域の担い手がだんだん少なくなっているという課題も認識できた。そのような中で未来寄合が行われ、10 年 20 年先でも今の地域での人のつながりが継続され、岩倉市に住んでよかったと思えるような意識が広まっているのではないかと思う。

【参加者】私もフォーラムに参加して若い世代の人の参加が多いのが印象的だった。中学生から 40 代くらいまでいた。若い世代の人はどういうきっかけで参加しているのか。

【市民協働グループ長】市の情報発信で自分から参加した人が多い。未来寄合については各地域の小学校区で開催したということもあり、地域で気軽に参加できる場として開催できたことで新しく参加した人もいると思う。中学生は学校に直接声をかけて参加いただいた。

【参加者】地区で今年度の保健推進員になった。まさか最後になるとは思わなかった。一緒にやっていた保健推進員からは「本来は市がやらなければいけないものを、私たちがやってきた。やっともとに戻る」という話をきいて、それは違うのではと疑問に思った。参加する人も少なくて、それでいいのかと思っていたが、１年任期で最後なので改善もできなかった。これからはやる気のある人だけでやっていくことになるとも聞いたので、ここからが大事になると思う。

【市長】保健推進員は形を変えていくということ。保健推進員の選出にあたっては地域に負担をかけていたのも確かだった。市民の健康を増進するという目的は変わらずに、自主的に集まってやっていただくということ。これから始めていくことなので成果が出るかはわからないが、一つの目的に対して手段を変えていく。

本来なら市でやらなければいけないというところ、行政のサービスとしてどこまでできるかというところは人とお金をどこまで投入できるか。人もお金も無限にあるわけではないので、優先順位の高いものから振り分けていかなければいけない。本来行政でやらなければいけないことかもしれないが、少しでも市民の皆さんや市民団体に担って頂くことでサービスが行き届くこともあると思う。人それぞれ受け取り方が違うと思うし、行政が市民の皆さんへ説明するにあたって最も難しいと感じる部分。いろいろな意見を頂く中で修正するしかないと思う。

【参加者】なんでも行政が行うという意識もおかしい。市の主体は市民であるべきであって、市民が自主的にやっていくこともあるべき姿だと思う。

【参加者】二つ意見がある。行政サービスの地域委託について、中本町区では区費を払っ

ている人が全体から見ると実は少数派。賃貸アパートの人は大家さんを経由して区費は払うものの、マンパワーとしては人数にいれられないという実態がある。でも行政サービスのほとんどは受けている。地域の担い手として半分しか参加していない、一方的に受けるばかり。区の役員からはそういうところに不満が出てきている。多数派に対してカバーができていないのでどうやって改善していくか。岩倉市だけで考えても仕方ないので全国の先進事例等を参考に岩倉市なりのやり方でやれないか。

もう一点が、市民参加条例についてロジックとしてはわかりやすい条例だが、全国的に見てどれくらい優れているか比較されたのか、研究されたのかを聞きたい。

【市長】区費を払って見えない方、そこからスタートして地域への関心が薄くなっているところがあるので、その問題を解決するために未来寄合をスタートした。まだ結論はでていないので、皆さんと話し合いをしながら、事例について研究しながら皆さんにお伝えしたい。

【市民協働グループ長】市民参加条例について他と比べてどれだけ優れているかをお伝えするのは難しいが、特徴についていくつかお話しする。

市民参加と協働の二本柱になっている。市民参加について対象となる事項を明確に規定していて、複数の手続きをとらなければいけないというのが特徴。また、市民委員登録制度を条例で定めているところは他では少ないと思う。潜在的には市政に興味があるけど、自分から手を挙げるまでは至らないという人に参加してもらうこともできる。

意見交換会や住民説明会は規定している自治体はあるが、市民討議会を規定している自治体はほぼなく、岩倉市が先進的に取り入れているもの。手法としては取り入れているが、条例にいれているところはない。市民討議会は潜在的に意見があるものの言うまでに至らなかった市民が出てきて、意見を述べ合うという仕組みになっている。やる気のある人だけで集まる会議ではなく、潜在的に意見がある人も市政に参考にしてもらうことが特徴的。給食センター跡地の活用方法、岩倉市第５次総合計画の策定の時に行った事例がある。

条例自体が市民参加の方法を規定しているところ、条例の策定自体にも市民参加があったということで、先進的な条例になっているといえる。

【参加者】市民討議会は実際に今まで関心がなかった人も手を挙げてくれているのか。

【市長】給食センター跡地のときは想定の倍の応募があってお断りすることもあった。想定以上の関心の高さが窺えた。

【参加者】自治基本条例が制定されたときに市民の政策提案に道が開かれた、市職員や議員にお願いしなくてよい、堂々と仲間を集めて提案できるすばらしいものだと思った。早

速政策提案を二つしたが、二つとも不採択だった。一つは桜まつりに関するもので、コロナ禍でうやむやになった。もう一つは市民から集めたお金を市民のために使えるようにする基金を使うことを提案した。間違った理由で提案が不採択だったときにそれを審議する仕組みがないのが不完全だと思う。

【総務部長】政策提案制度については、どのような政策提案があり、どのような理由で不採択になったのかというところまで公表している。密室で行われているわけではないし、採択しているものもあれば、不採択になったものもある。

【参加者】誰が、どのように決定しているのか。

【総務部長】市の中で協議する委員会を作っておりその中の合議で決定している。副市長をトップに部長級職員が入る。

【参加者】そこに市民は入らないのか。

【総務部長】そこに市民が入ることはない。

【参加者】提案者が入ることもない。

【参加者】市民活動支援センターを活用している。市民活動という範囲がどれくらいまであるのか。登録団体は200団体あるが、それを全て管理するのは大変ではないか。
　また、市内には公民館や児童館等団体が集まる場所がある。施設によって建てられた経緯が違うのかもしれないが、使用料について、安く利用できるようする方法はないか。
　広域で催しをするときに、１年先のスケジュールを決めようという時がある。そうしたときに３か月先しか予約できないとなると困る。もう少し先の予約もとれるようにしてほしい。

【市民協働グループ長】会場の先行予約については、参加者の規模や講師の状況から６か月前から予約できる制度がある。これは政策提案によって決まったもの。

【総務部長】施設についてはそれぞれ設置目的があり建てているので、一定の制約があるということもご理解いただきたい。

【参加者】施設の貸出について、目的によって減免受けられる受けられないことは仕方がないとしても、施設によってルールがあまりにも違いすぎる。申し込める期間が違ったり、

予約制であったり、先着順であったり施設を借りに行こうと思ったら終わっていることもある。申込方法等ルールは共通にしてほしい。

【総務部長】予約がしやすくなるように公共施設の予約システムの見直しも考えているが、ルールが違うという認識がなかったので調べる。

【参加者】市内にいろいろな施設があり、登録の方法、変更の届出、更新の期間が違う。一か所で出せば他ではいらないと思う人もいる。市の中で登録の窓口を一つにしてもらえばわかりやすくなるのではないかと思う。

【市長】施設についてはできた年代も経緯も違う。その時々でルールが決められてきたのだと思う。ただ、それは役所の都合であり市民の立場から見ると縦割りにしか見えない。制約があるのですぐの結論は出せないが、整理して検討していきたい。

【参加者】未来寄合も区切りがついて、今までやってきた中で課題はことごとく抽出されてきたと思う。これをどうしていくかについて引き続きお願いしたい。自治区の制度の中で言えば限られたことしかできない。若い人は仕事に出て家にいない、区長はますます成り手がいない。未来寄合の全体フォーラムで岡崎市の天野さんが講演されたが、個々の活動は岩倉でも五条川の清掃や、野菜の広場等と出来ている。課題はそういう活動の参加者をいかに増やして活性化していくかということだが、各自治区では担えない。岡崎では広域の自治会を作っている。若い世代のグループを作っている。岩倉でも近い活動はそろっているので次のステップにつなげて頂きたい。

【市長】未来寄合のその後については市にも考えがある。自治会の負担軽減も考えていきたい。私もフォーラムを聞いて思ったのがいかにキーパーソンを育てるか。自分からまちへ飛び込んでいき、つかむものなのだと思った。職員も地域に出て、民間でたくさんの人たちと協働して、情報を共有して、どう行動に移していくか、どう結びつけていき、つながりを作っていくことかと思う。

【協働安全課長】未来寄合について一定区切りはついたが、課題解決に向けてどうするかが次のステップ。未来寄合のアフタートークということで参加者にもう一度声をかけて、課題解決に向けて意見交換しつつ、行政区の中でモデル地区を選定して、モデル地区を中心にできることから始めていきたいと思っている。具体的な内容はこれから詰めて進めていく。

地域の課題解決に向けた取り組みとして、もう一つ補助・助成について、市民活動助成金の行政提案コースの中で、持続可能なまちづくりというテーマで募集をして、応募があ

った。地域に出向いて地域の課題について情報共有して、未来に向けた地域のつながりを作っていきましょうということを市民主体でやるということ。来年度取り組みがでればと思っている。
　最後に、行政区に対して自治会専用のアプリ等を導入して行政区のＤＸにも取り組んでいけたらと思っている。

【参加者】小規模多機能自治推進ネットワークのメンバーに岩倉市がなっている。小規模多機能自治は小学校区単位で予算と権限を付けて自治をやるという話であった。その関わりについて現在どうなっているのか。また、モデル地区ということだが、五条川コミュニティとは違うものなのか。もともと、コミュニティを作るための助成金があったと思うが、市民活動助成金ができたときにそれが廃止になっている。それらとは違う認識のものなのか聞きたい。

【市民協働グループ長】小規模多機能自治推進ネットワークのメンバーに加盟していますが、具体的な動きというよりは情報収集にとどまっている状態。

【協働安全課長】五条川コミュニティについては、宝くじの助成金を使ってコミュニティを立ち上げた。宝くじの助成金が終わってからコミュニティの助成金がなくなったわけではない。実際にお祭りに必要な機材等について補助が出ている。

【参加者】コミュニティを作るための助成金はなくなったと聞いた。

【協働安全課長】当時コミュニティ助成金を使うためには小学校区単位でコミュニティの組織を作らないと申請を受け付けないという規則にしていたかもしれない。行政区の支援をもっと積極的に進めていく中で見直して現在はない。今でも市民活動助成金の中にコミュニティ助成金はある。

【参加者】五条川コミュニティとモデル地区との違いはどうなのか。

【協働安全課長】違いはない。小学校区単位を一つの単位とした組織ができるのが理想。五条川コミュニティ以外にそうした組織がないので、モデル地区を選定して支援をしつつ新しいつながりを作って課題解決に向けた取り組みができればと思っている。

【参加者】桜まつりは今までと形が変わると聞いた。桜まつりなどのイベントごとの内容はどうやって決めているのか。

【市長】桜まつりに関しては関係団体を集めて実行委員会を開いて決めている。桜まつりを実施する中で騒音、ゴミ、さくらの木の寿命などの課題も出てきているので、各団体が役割分担して関わっている。合意形成をしながら形を変えている。誰かの一存で何かをきめることでもなく、そこで声を上げて決めていく。

３　終わりのあいさつ

・空の下いわくら　代表　水野孝司氏

午後９時終了